

# 「100年交流」と意気込み

## ホストタウン 南陽市長、五輪相に 誘致をめざし



丸川珠代五輪相（左）に意欲を語る  
白岩孝夫南陽市長（中央）

＝東京・中央合同庁舎8号館

2020年東京五輪・パラリンピックに参加する海外選手らとの交流を促す「ホストタウン」構想で第

4次登録を受けた南陽市の白岩孝夫市長が11日、丸川珠代五輪相を訪ね、「50年、100年と交流を続けてい

きたい」と意気込みを語った。南陽市は中米・カリブの島国バルバドスからの合宿誘致を目指している。大臣室を訪れた白岩市長は「中米の国と東北の市町村がつながる機会は五輪・パラリンピックがなければ、なかった。交流を長く続けていくよう頑張る」と話した。丸川五輪相は「中南米の国は日本にとって重要な国。交流の輪を広げてほしい」と激励し、「交流を120%楽しんでください」と記し、南陽市が全国にアピールするライメンのイラストを添えた色紙を手渡した。